

記 後 集 編

◇『学海』第八号をお届けする。四号から七号まで編集の任にあたられた中西先生のあとを継いで、本号は小生が編集を担当してみた。といっても、ただ前号の編集をそのまま踏襲しただけのことであるが。

◇教員の論文は例年どおり二本。大橋論文は、高遠出身の教育者伊沢修二の日本語教育について考察したもの。今号は業績と資料の紹介。教科書の内容分析は次号掲載予定。もう一本は、和歌形式の発生原理を韻律論的に考察した拙論。予定していた先生の原稿が間に合いそうにないということで、急遽、小生がピンチ・ヒッターとして執筆することになった、という次第。速成の論文を掲載する言いわけとさせていただく。

◇学生の論文・作品はやや手薄の感があるかもしれない。研究の出遅れがひびいているようだ。着想の面白さの点では掲載論文以上のものも少なくなかった。創作のほうは比較的順調だった。とくに詩歌は選びだしたらきりがなくらいだったが、本誌の性格上、極力掲載をひかえた。短歌は本誌初登場である。◇本学国文科の看板教授であった矢羽勝幸先生が本年度かぎりで専任の職を退かれることになった。二松学舎大学へ転出されるということである。とても残念であるが、本学でも非常勤講師として科目の担当を続けられることでもあり、ひきつづき本学会へのご協力をお願いしたい。

(坂野記)

平成四年三月三十一日発行

学 海 第八号

☎三六六一一二

上田市下之郷六二〇

発行者 上田女子短期大学

国語国文学会

会長 井出 賢次

☎〇二六八(三八)二三五二

佐久市中込二一八一二

印刷所 株式会社 樫(へい)ち(い)

☎〇二六七(六三)〇〇一八